

参考資料

分類名〔病害虫〕

参 8	水稻品種「金のいぶき」のばか苗病発病程度
------------	-----------------------------

宮城県古川農業試験場

要約

水稻品種「金のいぶき」は「ひとめぼれ」に比べばか苗病は2倍程度発病し易いが、温湯浸漬法や化学農薬による種子消毒で防除が可能である。

普及対象：水稻を栽培する生産者（68,000ha程度）
普及想定地域：県内全域

1 取り上げた理由

ばか苗病等種子伝染病害の多くは、胚芽周辺に菌が付着し易い報告があり、本県優良品種である「金のいぶき」は巨大胚品種であることから、通常の品種と比較し種子伝染病感染のリスクが高くなる可能性が考えられた。今回、本県の主力品種である「ひとめぼれ」と比較し、どの程度発病の差が見られるか検討した結果、両品種の発病に差が見られたため参考資料とする。

2 参考資料

(1) 「金のいぶき」は「ひとめぼれ」に比べ、ばか苗病は2倍程度発病し易いが、温湯浸漬法や化学農薬による種子消毒で防除が可能である。（図1）。

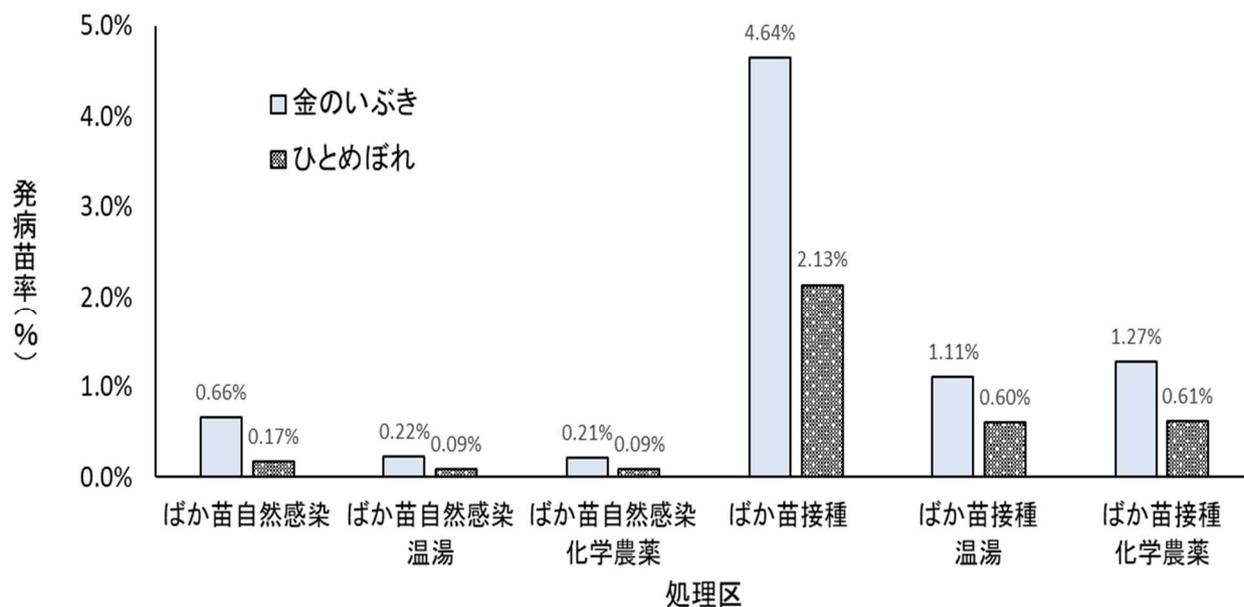


図1 処理別のばか苗病発病苗率（令和4年）

3 利活用の留意点

- (1) 本試験は令和4年に古川農試場内で採種した「金のいぶき」、「ひとめぼれ」種子を使用した。なお、本種子を採種したほ場の隣接ほ場でばか苗病が発生しており、本種子もばか苗病菌に自然感染しているものと考えられた。
- (2) ばか苗病菌接種種子は場内で分離したばか苗病菌を用いて作成した分生孢子懸濁液に、場内で採種した「金のいぶき」、「ひとめぼれ」種子を減圧下で1時間接種して作成した。
- (3) 温湯浸漬処理は60℃10分間、化学農薬処理は（イプコナゾール・銅水和剤：商品名テクリードCフロアブル、200倍、24時間浸漬）で行った。
- (4) 育苗箱の1/10サイズの容器に乾籾16g播種した。ばか苗病自然感染種子は両品種とも16g全て場内採種種子を用い、ばか苗病菌接種種子は両品種とも場内採種種子にばか苗病菌減圧接種種子を30%混合したものを使用した。
- (5) 「金のいぶき」は出芽がばらつく場合があるが、通常よりも浸漬や催芽時間を長くすることは、ばか苗の発生を助長させることに繋がるため避ける。
(問い合わせ先：宮城県古川農業試験場 作物環境部 電話0229-26-5107)

4 背景となった主要な試験研究の概要

- (1) 研究課題名及び研究期間事業研究
みやぎの主要農作物種子等生産体制整備事業（みやぎ米推進課：平成26～令和4年度）
- (2) 参考データ
- (3) 発表論文等
 - イ 関連する普及に移す技術
 - (イ) 温湯浸漬法によるイネの主要種子伝染性病害の同時防除（第77号参考資料）
 - (ロ) 育苗管理方法がばか苗病の発生に及ぼす影響（第84号参考資料）
 - (ハ) 温湯浸漬処理した種子のイネばか苗病菌に感染するリスクの評価（第91号参考資料）
 - (ニ) 催芽後保管した籾は、ばか苗発生リスクが高くなる（第97号指導活用技術）
 - ロ その他
なし
- (4) 共同研究機関
なし